

# マジプロ長期化望む声

小樽商大は18日、地域活性化を考える科目「商大生が小樽の活性化について本気で考えるプロジェクト」(マジプロ)の開講10年目を記念した成果発表会を同大で開いた。マジプロでは商大1、2年生が一つのテーマで半年間、企業などと連携し、実践を通して活性化を学んでいる。今回はこれまで連携した20企業・団体の担当者らが加わった座談会を初めて行い、活性化案や今後の方向性などを話し合った。(三坂郁夫)

## 開講10年目 樽商大で座談会



社会人を変え、活性化案や方向性などを話し合った座談会

### 20団体と学生参加 1 テーマ半年「短い」

今回の座談会にはNTTタウンページやおたる水族館、市立小樽図書館、小樽観光協会、エフエム小樽放送局などの職員20人が参加。学生らとともに5グループに分かれて話し合った。

小樽の魅力発信などを考え、「(小樽港内を遊覧する)屋形船などの観光資源を活用した新たな魅力発信」「外国からの観光客向けに外国語メニューを飲食店に普及させる」などの提案があった。

また、プロジェクト期間が半年で終わることに対し、長期的な視点を望むグループが複数あった。「地域との連携を深めるためにも1〜2年に長期化すべき」「学生がプロジェクトを引き継ぐ仕組みが必要」などの意見があった。

参加した北海道中小企業家同友会しりべし・小樽支部の加藤謙治さん(33)は「アイデアは粗削りだが、大人では考えつかないものもあり勉強になった。社会人が一緒になってまちの活性化のために議論することはいいと思う」と感想を語った。